

イーストウインド 2019年度トレーニング生

世界のアドベンチャーレースの舞台で活躍するのを目標に、今年は3人のトレーニング生が来ました。



写真左から…生田宙、田中正人、小倉徹、仲田勇輝

生田宙(21)

2019年度トレーニング生の生田宙(ひろし)です。出身が鳥取で学生時代はサッカーをしていたのですが、田中陽希さんのGreat Traverse日本二百名山をテレビで見たことがきっかけでアドベンチャーレースを知り、この世界に入りたいと強く思った事がきっかけです。ここまで来るにあたって、カップクラブの方々、East Windの方々をはじめ快く送り出してくれた家族や関西のアドベンチャー関係の皆様、今までお世話になった方々に1日でも早くガイドアップ、世界の舞台に立つ姿をお見せする事が出来るよう日々精進していきますのでどうぞよろしくお願い致します。

小倉徹(27)

大阪出身、27歳です。私はアウトドア経験は全くないです。9年間勤めた会社を辞めてイーストウインドのトレーニング生になりました。アドベンチャーレースという競技を通して人に甘えてばかりの弱い自分を変えたくてトレーニング生を志望しました。どんな困難にも諦めず逃げずにやり遂げ、世界のレースに出場できるように日々のトレーニングに取り組みます。

仲田勇輝(24)

小学2年生の頃から空手を続けています。性格は、熱意をもって全力でチャレンジしていくことが好きです。何かひとつのこのために人生を懸ける生き方をしたくて、ずっとそれを探していました。テレビで見た、イーストウインドの一人一人の生きていく力と、仲間と支え合い成し遂げる姿に、自分もチームに加わった姿を想像して、それが理想の生き方だと感じ行動しました。チャンスを頂いたからには全力で挑戦し吸収して自分の力に変えていくつもりです。自分の存在がチームに欠かせなくなるくらいメンバーになれるよう死ぬ気で食らいついていくつもりです。

新トレーニング生を、どうぞよろしくお願い致します。

2月、3月は各地にて講演をさせていただきました。ご聴講くださった皆様、お声掛けくださったご担当者様、ありがとうございました。

◆2月17日 『多摩川水辺の楽校シンポジウム川崎』

タイトルは「人間が学ぶものはすべて自然の中にある」。小学生もいるということで、難しい内容ではなく、自らが経験をしたことを基に、自然の中で遊び、学び、自ら考えることの大切さをお話させていただきました。レース中に出会った野生の動物の話に子どもたちは興奮しながらも、最後までしっかり聞いてくれました。



◆3月5日 『佐久長聖高校』

数多くの有名アスリートが卒業した佐久長聖高校(長野県佐久市)の修学旅行にて、講演をさせていただきました。30分という短い時間でしたが、チームを作ることの大切さ、その中で自分の役割を果たすことでチームがよりよいものになっていくという話をさせていただきました。

◆3月21日 『岡山県トレイルランニング協会』

岡山県トレイルランニング協会の設立イベントにお招きいただき、「自然との向き合い方」というタイトルで講演させていただきました。アドベンチャーレースやトランスジャパンアルプスレースで経験した「自然の中ではすべて自己責任であること」「これから協会が動いていくにあたり、自らの責任で行動を起こすことの大切さ」についてお話をさせていただきました。

講演によせて

アドベンチャーレースは個々の体力はもちろん、チームで協力してゴールを目指すため、コミュニケーション能力やチームワークが必要になってきます。男女混成、バラバラな年齢層、多種目が特徴のアドベンチャーレースは、いわば社会の縮図でもあります。レースはもちろん、事前の準備段階から総合的に人間力が試されるのです。

アドベンチャーレースのキーワードは「対自然、対人間、対自分」。

この3つに真摯に向き合うことで人間力が向上します。この競技は主催者の管理の及ばない大自然の中で競技を行なうため全ての危険を受け入れなければなりません。しかし、競技であるためかなりの無茶をするので当然のように自然から痛い仕打ちを受ける。そうした中で自然の偉大さや人間の小ささを思い知らされます。

チームに関しても、極限の中で競技を続けるため次第に仲間を労わる余裕もなくなり、そのうちに自分の本性がさらけ出されてお互いにぶつかり合います。しかし、ぶつかり合いながらも一つの目標に向けて折り合いを付けなければなりません。

「人とぶつかり、己を知る」。普段の社会生活にはない濃い人間関係を体験することになる絶好の環境を与えてくれるのが自然です。

「人間が学ぶものは全て自然の中にある」。私はそれを日本人に伝えたいと思っています。

田中正人